

自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する力を付ける
国語科「書くこと」の授業実践

大垣市立時小学校 教諭 瀬古 菜月

【概要】

文章を書き終わると「先生、こんなにたくさん書いたよ。」と嬉しそうに私に見せる、書くことに前向きな児童のよさをさらに伸ばしたい。本実践では、「自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する子」を願い、「①児童が、学習の見通しをもつことができる単元・単位時間の手立て」、「②児童が、自分の力や伸びを正しく捉えて学びを進めるための支援」の2つを視点に、国語科「書くこと」の授業実践を行った。①として、学習計画表の活用で学習過程への意識を高めたり、モデル文の提示・比較で単位時間の課題を明確にしたりした。また、②として、児童が自分の力に合わせて選択できる教材を用意したり、表現・評価の場を設定したりした。その結果、児童は単元全体の見通しをもち、学習過程の目的を意識して「書くこと」に取り組んだ。そして、単位時間の課題を明確にし、自分の文章に生かすことができた。また、書き表し方を工夫することのよさや自分の書く力の伸びを実感し、分かりやすく書こうとする意識が高まった。「分かりやすく書けた。」と文章を見せる児童の姿も見られるようになった。

1. 主題設定の理由

(1) 児童の実態

日記や壁新聞、授業のまとめ…学校生活で文章を書く場面はいくつもある。児童は、文章を書き終わると「先生、こんなにたくさん書いたよ。」「きれいな字で書いたよ。」と嬉しそうに私に見せる。「1枚じゃ足りません。裏まで書いてもいいですか。」と聞いてくる児童がたくさんいる。目の前にいる児童たちは、「書くこと」に対してとても前向きに取り組んでいる。

しかし、児童が見せてくれた文章には、何を伝えたいのかが明確になっていなかったり、言葉が足りなかったりして、読みにくいものが多い。読み手のことを考え、自分の考えを伝えるために書く、という意識は薄いように感じる。

(2) 要因の分析

このような児童の実態について、大きく2つの要因があると考えます。

1つ目に、児童が学習の見通しをもてていないことである。「何のための本時なのか。」「何ができればよいのか。」が曖昧であるため、児童は「たくさん書いてよかった。」等、成果が一目で分かる、文章量や文字の美しさで文章を評価するようになったと考える。

2つ目に、児童が自分の書く力を把握できていないことである。伝えたい内容が整理されていな

い文章でも「字が大きくてきれいだから、いい文章だ。」と過大評価したり、「自分は、たくさんは書けないから書くことが苦手だ。」と過小評価したりする姿がある。

(3) 願う児童の姿

以上のことから、「自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する」児童の姿を願い、本実践の研究主題を「自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する力を付ける国語科「書くこと」の授業実践」とした。

2. 研究仮説

学習の見通しをもつことができる単元・単位時間の手立てと、自分の書く力を正しく捉えて学びを進めるための支援を行うことで、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する子が育つ。

3. 研究内容

| | |
|-------|--------------------------------|
| 研究内容Ⅰ | 児童が、学習の見通しをもつことができる単元・単位時間の手立て |
| (1) | 単元全体を見通して学習を進める手立て |
| (2) | 単位時間の課題を明確にする手立て |
| 研究内容Ⅱ | 児童が、自分の書く力を正しく捉えて学びを進めるための支援 |
| (1) | 個の実態に合った教材の工夫 |
| (2) | 自分の伸びを実感する場の設定 |

4. 研究実践

【研究内容 I】児童が、見通しをもって学ぶことができる単元・単位時間の手立て

(1)単元全体を見通して学習を進める手立て

書き表し方を工夫するための土台として、児童が単元全体を見通し、「何のための本時なのか」を明確にして単位時間の学習に臨めるようにする。

そこで、児童が相手意識・目的意識をもったり、情報の収集、構成の検討といった学習過程を確かめたりできるように、図1の学習計画表を作成・活用した。

| | | | |
|-----------------------|-----------|------------------|---------|
| 3 | 2 | 1 | 時間 |
| 仕事見学のメモを整理しよう。 | 学習計画を立てよう | 相手 | 今日のポイント |
| 分かったこと、考えたことをまとめてみよう。 | 目的 | 野のま虫の、みんなが知らない仕事 | 今日のポイント |
| | | 相手 | 今日のポイント |
| | | 目的 | 今日のポイント |

【図1:学習計画表の一部】

3年生「仕事のくふう、見つけたよ」(6月)
学習計画表使用時のポイント:
相手意識・目的意識を明確にする。

社会科「学校のまわり」の学習で校区にある店を見学した後、本単元の導入で「相手」と「目的」を学習計画表に位置付けた。その際、児童と以下のようなやり取りをした。

| | |
|-------------------------------------|--|
| C1: 町探検で見つけた仕事の工夫を、他の人にも知ってほしいよ。 | 目的意識をもつて、取り組もうとする姿。 相手意識を明確にして、学習に取り組もうとする姿。 相手意識・目的意識をもとに、表現の場を具体的に設定しようとする姿。 |
| C2: 車屋さんにはすごい道具がたくさんあったから、紹介したいな。 | |
| T: 誰に伝えたいの? | |
| C3: 1・2年生は知らないことがたくさんあると思うから、見てほしい。 | |
| C4: 私は、5・6年生にも見てほしいな。 | |
| T: どうやって見てもらう? | |
| C5: 廊下に貼れば、いいんじゃないかな。 | |
| C6: でも、2階だとみんなは見られないよ。図書館の前の方がいいかな。 | |

相手意識・目的意識を明確にし、単元のゴールを具体的に描くことで、自分の考えを伝える意識の土台を作ることができた。またその後の学習も、学習計画表で「相手」や「目的」を確かめることで意識を持続することができた。そこで、次単元では、相手意識・目的意識の持続に加えて、単元全体の見通しへの意識を大切にしたいと考えた。

3年生「〇〇のへんしん丸わかりガイド」(11月)
学習計画表使用時のポイント:
単元全体の見通しをもって学習を進める。

前単元での成果を生かし、児童が単元全体の見通しをもって学習を進められる姿を目指して、学習計画表を活用した。導入では、学習計画表で学習過程を確かめながら「いきなり清書ではないのだね。こうやって進めると何がいいのかな。」と尋ねると、児童は以下のように話した。

| | |
|---|------------------|
| C8: <u>どんな食材があるか分からないから、調べる時間があるんだよ。</u> | 学習過程の目的を捉える姿。 |
| C9: <u>下書きの後は、見直しをしたいな。字が間違っていると読みにくいし。</u> | 学習の進め方を具体的に考える姿。 |
| C10: <u>下書きの2時間目で見直そうかな。</u> | |

以上のように、学習計画表を拠り所に、学習過程が文章の完成にどのように関わるのかを考え、その目的に気付くことで、児童は単元全体の見通しをもち、学習を進めることができたと考えられる。

3年生「たから島のぼうけん」(12月)
学習計画表使用時のポイント:
自分に合った学習計画を立てる。

6月と11月の実践により、児童は相手意識・目的意識を明確にし、単元全体の見通しをもって学習を進める力を付けた。そこで、さらに学習過程への意識を高めるため、本単元では児童が個々で、学習計画の作成、物語を届ける「相手」と「目的」の設定を行った。児童は、これまでの「書くこと」の学習を振り返り、自分の力や考え方に合わせて時間配分を決めた。例えば、A児とB児は次のように学習計画を立てた。

| | [A児の場合] | [B児の場合] |
|------|-------------|---------|
| 4時間目 | ・組み立て | ・組み立て |
| 5時間目 | | ・下書き |
| 6時間目 | ・下書き ・推敲 | ・推敲 |
| 7時間目 | | |
| 8時間目 | | |

A児は、「いつも、何をどうやって書こうかすごく悩むから、考える時間がたくさんほしい。」と組み立てに2時間を使った。B児は、「書くのは得意だから、しっかり見直しをしたい。」と話し、推敲に2時間を割いた。このように、自分に合った学習計画を立てることで、児童の学習過程への意識はこれまで以上に大きくなった。

今後も実践を重ねることで、児童が、より自分に合った学習計画を組めるようにしていきたい。

(2) 単位時間の課題を明確にする手立て

児童が書き表し方の工夫やよさに気付くことで、「何ができればよいのか」を見通せるようにする。そのために、導入時にモデル文を提示・比較し、書き表し方の工夫やよさを捉えることを通して、特に重視する書き表し方の工夫(以下、ポイント)を明確にした。

4年生「新聞を作ろう」(6月)

今日のポイント：

どこに何が書いてあるか分かりやすい紙面構成。

本時の導入で、図2のモデル文を配付した。左側には新聞記事、右側には新聞記事の文章を平打ちしたものが載っている。



【図2：構成を比較するためのモデル文】

このようなモデル

文を示した理由は、以下の通りである。

- 文章構成のみに違いを作ることで、新聞特有の紙面構成のよさに気付きやすくなる。
- 時小に関する新聞記事を題材とすることで、一番伝えたい記事が何かを捉えやすくなる。

普段は新聞を読まないという児童たちだが、モデル文の提示が有効に働き、紙面構成の中にある工夫をたくさん見つけることができた。

| | |
|----------------------|---------|
| C1: 写真が大きく載っているから、左の | 紙面構成の工夫 |
| 方が分かりやすいです。 | を捉える姿。 |
| C2: 大きく見出しが載っていると記事 | |
| の内容がすぐに分かると思います。 | |
| C3: 時小の記事が一番上に載っていて | |
| 新聞の中で一番伝えたいことを一 | |
| 番上に載せると分かりやすいです。 | |
| T: みんなが言っている「分かりやすい」 | 紙面構成の工夫 |
| は、何が「分かりやすい」のですか | のよさを捉え、 |
| C4: どこに何が書いてあるかが分かりや | ポイントを明確 |
| すくなっているのだと思います。 | にする姿。 |

モデル文をもとに「分かりやすい」を具体的に考えることで、児童は紙面構成を工夫するよさに気付く、ポイントを明確にした。その後の新聞作りでは、見出しの大きさや記事に載せる写真を決める際に、「どこに何が書いてあるか、分かりやすい紙面構成」に立ち返って考える姿があった。

3年生「仕事のくふう、見つけたよ」(6月)

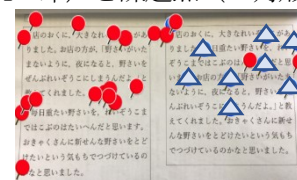
今日のポイント：

「分かったこと」と「思ったこと」を分けて書く。

モデル文の提示には、ICT(タブレットに導入されているアプリ「ミライシード」の「ムーブノート」)を活用した。理由は、以下の通りだ。

- 「広場」を活用することで、児童と教師が、意見を共有できる。
- 「スタンプ集計」の活用で、学級全体の意識が視覚的に分かり、児童が課題意識をもちやすくなる。

写真1のように、児童は2種類のモデル文を比べて、文章のよい点(丸い印)と課題点(三角形の印)をスタンプで示した。そして、写真1の集計結果をもとに、「今日のポイント」について話し合った。



【写真1：ムーブノートを活用した導入】

| | |
|---------------------------------------|--------|
| C5: 左側の文は、文の最初が1マス空 | 文章の表記に |
| いているからいいと思います。 | ついて捉えて |
| C6: 長い文でずっと書いているのではな | いる姿。 |
| くて、段落を分けていると思います。 | |
| C7: 段落は、分かったことと <u>思ったこと</u> | 書き表し方の |
| で分かれているのだと思います。 | 工夫を捉え |
| C8: <u>分かったこと</u> と <u>思ったこと</u> が混ざる | ている姿。 |
| と、自分で考えたのか、お店の人に教え | 書き表し方の |
| てもらったのか、よく分からなくなる | 工夫のよさを |
| から、分けるといいと思います。 | 考える姿。 |
| T: 「今日のポイント」はどうしますか。 | |
| C9: <u>分かったこと</u> と <u>思ったこと</u> を分ける | ポイントを明 |
| は新しいことだから、今日はこれを | 確にする姿。 |
| ポイントにするといいと思います。 | |

モデル文を比較し、C8のように書き表し方を工夫するよさを考えることで、根拠をもってポイントを明確にすることができた。また、ピンを打つことはできても、その理由まではなかなか言語化できない児童も、仲間の話を聞くことで、書き表し方を工夫するよさを掴むことができた。その後の書く活動では、ポイントに沿って書き進めたり、見直しをしたりする姿があった。

よって、モデル文の提示・比較は、単位時間の課題を明確にすることに有効だといえる。

【研究内容Ⅱ】児童が、自分の書く力を正しく捉えて学びを進めるための支援

(1)個の実態に合った教材の工夫

児童の、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する力（以下、書く力）には差がある。それは、これまでの学習の積み上げや学習ペースの差によるものである。そこで、複数の教材を用意し、児童が自分に合ったものを選択することで、児童全員が書き表し方を工夫する姿を目指した。

4年生「新聞を作ろう」（6月）

4年生「いざ！に備える私の意見書」（11月）

教材：児童が選択して使えるワークシート

用意したワークシートは、2種類である。

①罫線のみのももの。

②段落の最初の一マスに色がついていたり、使うとよい言葉の例が載っていたりするもの。

自分の考えを書き表すことに困難さがあるC児は、次のようにワークシートを選択した。

| | | |
|----------------|---------------------------|--------------------------------------|
| 「新聞を作ろう」 | ①を選択。書き進めることができなかった。 | 自分の書く力が把握できていない姿。 |
| 「いざ！に備える私の意見書」 | 1枚目：②を選択。ヒントを参考にして書いた。 | これまでの学習から、自分の書く力を捉え直し、ヒントを使って書き進める姿。 |
| | 2枚目：②を選択。教師や仲間の助言を受けて書いた。 | 自分に適した教材が分かり、迷わず選択する姿。 |

6月「新聞を作ろう」で、C児に①のワークシートを選んだ理由を訊くと「書けると思ったから。」と答えた。しかし、C児は書き出しの一文を書くことはできたが、その先は書き進めることができなかった。その後、構成や書き表し方の工夫について教師と一緒に確認しながら進めることで、C児は記事を完成させることができた。

11月「いざ！に備える私の意見書」では、自ら②の、ヒントのついたワークシートを選ぶ姿があった。これは、6月の実践をもとに、C児が自分の力を把握したからこそその選択だと考える。C児は、使うとよい言葉の例を参考にするすることで、「例えば」「このように」等の言葉を選択し、書き表し方を工夫した。そして、教師や仲間に助言を受けながら、文章を完成させることができた。

3年生「仕事のくふう、見つけたよ」（6月）

3年生「〇〇のへんしん丸わかりガイド」（11月）

教材：児童が選択して使えるワークシート

6月、児童は、研究内容Ⅰ(2)で挙げたように、「分かったことと、思ったことを分けて書く」ことをポイントとして下書きに取り組んだ。その際、

①マス目のみのももの。

②「分かったこと」と「思ったこと」を2つの段落に分けるよう、線で囲って示したもの。

③②のプリントに、使うとよい言葉の例を載せたもの。

の3種類のワークシートを用意した。自分の力で書き進められるD児は、次のように選択をした。

| | | |
|------------------|---------------------------|--|
| 「仕事のくふう、見つけたよ」 | 1枚目：③を選択。自分が思ったよりも書けた。 | 自分の書く力が把握できていない姿。 |
| | 2枚目：②を選択。段落を意識して書くことができた。 | 自分の書く力を正しく捉えようとしている姿。 |
| | 3枚目：②を選択。②で書けたから、①でも書けそう。 | 自分に合った学習の進め方を選択し、自信をもって書き表し方を工夫する姿。 |
| 「〇〇のへんしん丸わかりガイド」 | ①を選択。ヒントがなくても書き表し方を工夫できた。 | 自己評価以上に自分の書く力が高いと気付いたことが自信になり、教材のレベルを上げて書き表し方を工夫する姿。 |

6月「仕事のくふう、見つけたよ」でD児は、言葉のヒントがなくても自分の力で書けることに気づき、ワークシートを③から②に変更した。また、②のワークシートを使うことで、文章の内容によって段落を分けることよさを確認した。

そして、11月「〇〇のへんしん丸わかりガイド」の下書きの際には、①のワークシートを自ら選択した。自分の書く力を知り、D児に自信がついたと考える。D児は、文章の内容によって段落を分けたり、順序を表す言葉を使ったりして、自分で書き表し方を工夫していくことができた。

よって、C児のように自分の書く力を過大評価していた児童にも、D児のように自分の書く力を過小評価していた児童にも、自分の書く力を知り、教材を選択することは、児童が書き表し方を工夫するための支援として有効だといえる。

(2) 自分の伸びを実感する場の設定

児童が、書き表し方を工夫することのよさや、それによる自分の書く力の伸びを感じられるようにするため、表現・評価の場を設定した。

4年生「新聞を作ろう」(6月)

相手：地域の人や、時地区を知らない人

目的：時地区の魅力(かがやき)を伝える。

相手意識・目的意識に合った表現方法として、壁新聞を選択し、書く活動に取り組んだ。その後、①保健室前の廊下に掲示、②学校のホームページに掲載、の二つの方法で新聞を伝えることにした。その理由は、次のような思いがあったからである。

- ・「①保健室前の廊下に掲示」することで、登下校をする児童や、時小学校に来校したお客さんに見てほしい。
- ・「②学校のホームページに掲載」することで、時小学校に来校しない人にも見てほしい。

これらの場は、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しようとする児童の意識に繋がった。新聞が掲示・掲載されると、「見たよ。」と声をかけられることもあり、児童は達成感を味わった。

一方で、掲示や掲載では、児童の新聞について直接感想をもらうことが難しく、児童は自分の考えを伝えることができたか、判断ができなかった。評価の場の設定が、次単元への課題となった。

4年生「いざ!に備える私の意見書」(11月)

相手：時小学校の5・6年生

目的：「自分にできる災害への備え」を伝える。

前単元の課題をもとに、自分の伸びを実感できるように2つの評価の場を設定した。

①児童同士の評価

下書き完成後は児童同士で推敲し、お互いの作品にコメントをした。その際、ICT(タブレットに導入されているアプリ「ミライシード」の「オクリンク」)を活用した。理由は以下の通りである。

- ・児童それぞれに作品を共有することで、個人のペースでコメントを考えることができる。
- ・訂正がしやすいため、児童が試行錯誤しながらコメントを考えることができる。

「相手」や「目的」に立ち返り、「5・6年生にとって分かりやすい文章になっているか」の視点で文章を読み直すことで、文章の表現に着目して

コメントをする姿があった。例えば、E児の意見書を読んで、F児は次のようにコメントしている。

| | |
|--|--|
| <p>例えば、早くひじょうようバックを持っていけるようにげんかんに置くといいと思います。「被災者からまなぶ1自然災害にそなえて」によると、「おし入れのおくなでは、いざというときに取り出せません」と書いてありました。<u>おくなではだめなのは、早くとり出せないからです。</u>(E児の意見書一部抜粋)</p> | <p>例の文ってよく分かるよ! つまり、何を工夫するといいの?「げんかんに置くといい」にすると良いと思うよ。 (F児のコメント)</p> |
|--|--|

E児は、「例えば」の言葉を使ったり、引用を用いたりして、書き表し方を工夫することができた。またF児も、「E児の考えが伝わるように書き表せているか」を視点に、よさを見つけたり、文章の内容を見直してアドバイスをしたりしている。自分の伸びを実感し、よりよい表現を目指すことができる評価の場になったと捉えている。

②「相手」からの評価

単元の出口として、本単元の「相手」に設定した5・6年生に意見書を届けた。5・6年生からは感想を付箋に書いてもらった。

G児が実際にもらった感想が写真2である。G児の主張は「地震の時は、避難するときの服装に注意してほしい。」であり、付箋には次のよ



【写真2：意見書に対する感想】

うに大きく分けて2種類の感想が書いてあった。

| | |
|---|---------------------------------------|
| <p>・避難するときの服装の事は考えたことがなかった。<u>これを機に服装の事を考えたい。</u></p> <p>・意見が初めにあるから、よく分かった。</p> <p>・理由がはっきりしていて分かりやすい。</p> | <p>・G児の主張について。</p> <p>・書き表し方について。</p> |
|---|---------------------------------------|

そして、コメントをもらったG児は、

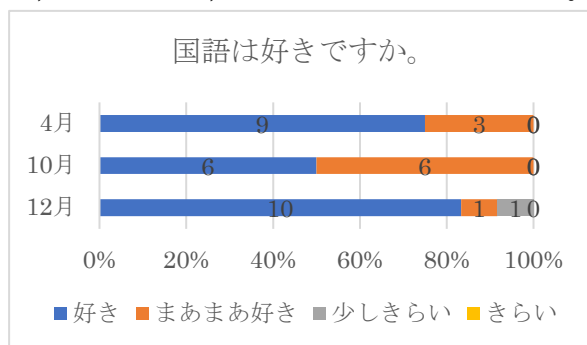
| | |
|--|---|
| <p>みんなが、ぼくの意見をちゃんと分かって感想を書いてくれているから、<u>考えが伝わったんだと思うと嬉しいです。</u>きっと、理由の書き方とか、中身を<u>しっかり考えて書いたから伝わったんじゃないかな</u>と思います。</p> | <p>自分の主張が伝わったことを実感する姿。</p> <p>書き表し方を工夫するよさを実感する姿。</p> |
|--|---|

と話した。「相手」から評価をもらうことは、書き表し方を工夫することのよさや、それによる自分の書く力の伸びの実感に繋がったと考える。

5. 研究の成果と課題

(1) 児童へのアンケート結果より

学級の児童である3年生8人、4年生4人に対し、4月と10月、12月にアンケートをとった。



【図6：児童に行ったアンケートの質問と回答の比較】(単位：人)

10月のアンケートでは、国語が「好き」と答える児童の割合が低下した。「書くこと」について得意なこと・苦手なことを自由記述で訊くと、

| 得意なこと | 苦手なこと |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな字を書く。 ・たくさん書く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・理由を書く。 ・段落を分ける。 |

といった内容が挙がった。この結果は、これまで文章量や文字の美しさに目を向けていた児童たちが書き表し方を工夫するよさと難しさに気付き、よりよい文章を書こうとしたからこそだと考える。

12月のアンケートでは、国語が「好き」と答える児童の割合が増加した。下に示したように自由記述の内容が変化した児童もいた。

| | |
|-----|--------------------|
| 4月 | 文を書くのが得意だから。 |
| 10月 | 丁寧な字で文字を書くのが得意だから。 |
| 12月 | 理由や例を挙げて書くのが得意だから。 |

書き表し方を工夫して文章を書けたことが自信になり、国語が好きな気持ちにつながったと考える。

また、これから目指したい文章について訊くと、

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい ・役に立つ ・読む人に伝えられるように |
|---|

といった記述が、全ての児童の回答に見られた。

「自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫する」ことへの児童の意識は高まったといえる。

一方で、国語が「少し嫌い」と答えた児童もいた。C児である。授業では、教師や仲間の助言を受けて文章を完成させたが、自分の書く力を捉えたことで自信を失い、評価が下がったと考える。今後、C児のような児童には、「書き表し方の工夫」

について助言をし、活用できた場面を認めることで自信を付けていきたい。

(2) 成果と課題

本研究について、実践やアンケート結果を参考に、○成果と●課題を次のように考えた。

- 児童が学習の見通しをもつことで、「自分の考えが伝わる文章か」を視点に、主体的に学習に取り組む姿が増えた。
- 児童が自分の書く力に合う教材を選択することで、どの子も書き表し方を工夫できた。
- 書き表し方を工夫するよさや伸びの実感が、分かりやすく書こうとする意識を高めた。
- 研究内容I(1)について今後も実践を重ね、児童の学習過程への意識を高めたい。

6. 終わりに

実践を通して、係の活動や行事の振り返り等の国語以外の場面で文章を書く際に、「初め・中・終わり」を意識したり、推敲したりする児童が増えた。「分かりやすく書けました。」と文章を見せる児童の姿もある。分かりやすく書けることに自信をもち、積極的に「書くこと」に取り組む児童の姿が多く見られようになったことが嬉しい。今後も、3・4年生の12人が書く力を高めることができるように実践を続けていきたい。

＜参考＞

- ・小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校国語
- ・学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年3月版)